

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 5 年 4 月 11 日 (2023.4.11)

【公開番号】特開 2022-31413 (P2022-31413A)

【公開日】令和 4 年 2 月 18 日 (2022.2.18)

【年通号数】公開公報 (特許) 2022-030

【出願番号】特願 2021-209996 (P2021-209996)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/90 (2013.01)

A 6 1 L 31/02 (2006.01)

A 6 1 L 31/12 (2006.01)

A 6 1 L 31/14 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/90

A 6 1 L 31/02

A 6 1 L 31/12

A 6 1 L 31/14

10

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 5 年 4 月 3 日 (2023.4.3)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

送達形態における半径方向に圧縮した状態から、半径方向に拡張した状態まで拡張できる、軸に沿って延在する少なくとも 1 つの自己拡張型編組フレームワーク (20) から実質的になる多層構成を有する、分枝を含む動脈瘤の治療に使用される埋め込み型管腔内プロテーゼ (1) であって；前記自己拡張型編組フレームワーク (20) は、単一で所与のワイヤ直径 (21) を有する、多くても 196 本のワイヤ (21) で形成され；この自己拡張型編組フレームワーク (20) は、いずれの不透過性カバー層も欠いており、生体適合性材料で作製されたワイヤ (21) の複数の層を含み；および前記管腔内プロテーゼ (1) の壁を形成し；各層はメッシュを形成し；前記メッシュは、前記層の複数のワイヤ (21) で格子を形成し；前記メッシュはからみ合わせられており、前記層が編組時に区別できず、第 1 の層のワイヤが第 2 の層および / または他の層のワイヤとからみ合わせられており、各ワイヤは、隣接する層のうちの少なくとも 1 つの層の前記メッシュに組み込まれており；前記自己拡張型編組フレームワーク (20) は、円形横断面および一定直径のシリンダー形のルーメンを含む、埋め込み型管腔内プロテーゼ (1) において；半径方向に拡張した状態において、半径方向に拡張した状態における前記埋め込み型管腔内プロテーゼ (1) の壁の厚さ (T₁) 対ワイヤ (21) の前記直径 (21) の比 (T₁ / 21) は、2.0 から 3.0 であり；および前記編組フレームワーク (20) の表面被覆率 (SCR) は、少なくとも 35 % および多くても 50 % であり、複数層構成のワイヤは、隣接する平行するワイヤ間において一定の距離を保つようにシフトし、前記 SCR が湾曲状態および直線構成において維持されることを特徴とする、埋め込み型管腔内プロテーゼ (1)。

30

40

【請求項 2】

前記比 (T₁ / 21) が少なくとも 2.5 である、請求項 1 に記載の埋め込み型管腔内

50

プロテーゼ (1)。

【請求項 3】

前記自己拡張型編組フレームワーク (20) が、少なくとも 90 本のワイヤおよび多くても 130 本のワイヤを含む、請求項 1 又は 2 に記載の埋め込み型管腔内プロテーゼ (1)。

【請求項 4】

前記生体適合性材料が、チタン、ニッケル - チタン合金、任意のタイプのステンレス鋼、およびコバルト - クロム - ニッケル合金からなる群から選択される金属基材である、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の埋め込み型管腔内プロテーゼ。

【請求項 5】

前記生体適合性材料が、ニチノール、Nitinol-DFT(登録商標)-Platinum、および Phynox (登録商標) からなる群から選択される金属基材である、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の埋め込み型管腔内プロテーゼ。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

少なくとも 2.5 の比 T_1 / T_{21} を有する、からみ合わせられた複数層構成は、重要な好都合な技術的特性をもたらす。動脈瘤が、湾曲の外側にある場合、分枝、例えば上大動脈分枝 30 の開存性を保ちながら、望まれない損傷を与える乱流 33 を滑らかな層流 36 に変換することによって、動脈瘤囊の保護的に組織化された血栓を形成するためには、湾曲の外側においてメッシュの最適な SCR および最適な開口径を設定することが、最も重要である。本発明のからみ合わせられた複数層構成のワイヤは、隣接する平行するワイヤ間において一定の距離を保つようにシフトし、SCR が、湾曲状態および直線構成においてほとんど同じままとし得るようにする。それどころか、 T_1 / T_{21} が 2.0 未満の従来の単一層のメッシュ様のチューブが、湾曲した管腔内で展開されるとき、湾曲の外側における SCR は、直線構成における SCR よりも遥かに低い。それゆえ、本管腔内プロテーゼ 1 の比 T_1 / T_{21} は、2.0 超、好ましくは少なくとも 2.5、一層好ましくは少なくとも 3.0、さらに一層好ましくは少なくとも 3.5、さらに一層好ましくは少なくとも 4.0 である必要がある。

10

20

30

40

50